

伊賀市議会政務活動費明細書

伊賀市議会議長 様

報告者

議員名

増田 雄

支出項目

調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費

人件費・事務所費

(該当項目に○をつけて下さい)

内 容

日付	明細	領収書等の 金額 (円)	按分率	金額 (円)
11/6	令和ネコのあくび 印刷物	72,055		72,055
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
計				72,055 円

領 収 書 等 添 付 用 紙	議員名	増 田 雄
調査研究費・研修費・ <u>広報費</u> ・広聴費・会議費・ <u>資料作成費</u> ・資料購入費 人件費・事務所費 (該当項目に○をつけてください。)		

項目ごとに領収書添付

- ・領収書等は情報公開に備えて、重ならないように添付すること。
- ・両面になっているものは、全面に糊付けせずに裏面が確認できるように添付すること。
- ・A4以上の大きさに貼り付けるのが適当でないものはそのまま添付すること。
- ・足りない場合は、裏面を利用せずに新しい用紙へ添付すること。

領 収 証

増 田 雄

様

No. _____

★

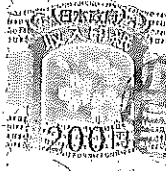
¥ 72,055-

但

登録番号 T7810452782781

2023 年 11 月 6 日 上記正に領収いたしました

内 訳



税抜金額

消費税額等 (%)

看板・塗装 大和工業

〒518-0836 三重県伊賀市緑ヶ丘本町4164-1
TEL0595-23-0226・FAX0595-23-1408

御請求書

田中・増田・桃井・濱瀬 様

日付 2023年10月30日

工事名: 令和 ネコのあくび 印刷物

受渡期日:



大和工芸

〒519-0809 三重県伊勢市西条4-678-4
TEL 0595-28-0228 FAX 0595-28-1409

合計金額 ¥288,222

品名	数量	単位	単価	金額	備、考
チラシ製作 B4サイズ両面フルカラー					
1 令和ネコのあくび創刊号コート紙55k仕様印刷 原稿レイアウト入力編集及び校正費用	1	式	193,700	193,700	
2 吉岡新聞舗 オリコ料金立替 10/30日 20,800枚×2.9円	1	式	60,320	60,320	
諸経費	1	式	8,000	8,000	
上記合計分の1/4づつご請求させていただきます。 ¥262,020÷4名=65,505(税別)となります、 宜しくお願い致します。					
小計				262,020	
消費税				26,202	税率10%
合 計				288,222	

振込口座 北伊勢上野信用金庫 緑ヶ丘支店 (普)
大仁田利哉 (オオニタ トシヤ) 迄
宜しくお願い致します

※振込手数料は御客様にてご負担お願い致します

当店の適格請求書発行事業者登録番号は
【T 7810452782781】です

※振込手数料は御客様にてご負担お願い致します
当店の適格請求書発行事業者登録番号は
【T 7810452782781】です



旧上野市庁舎 活用の経緯

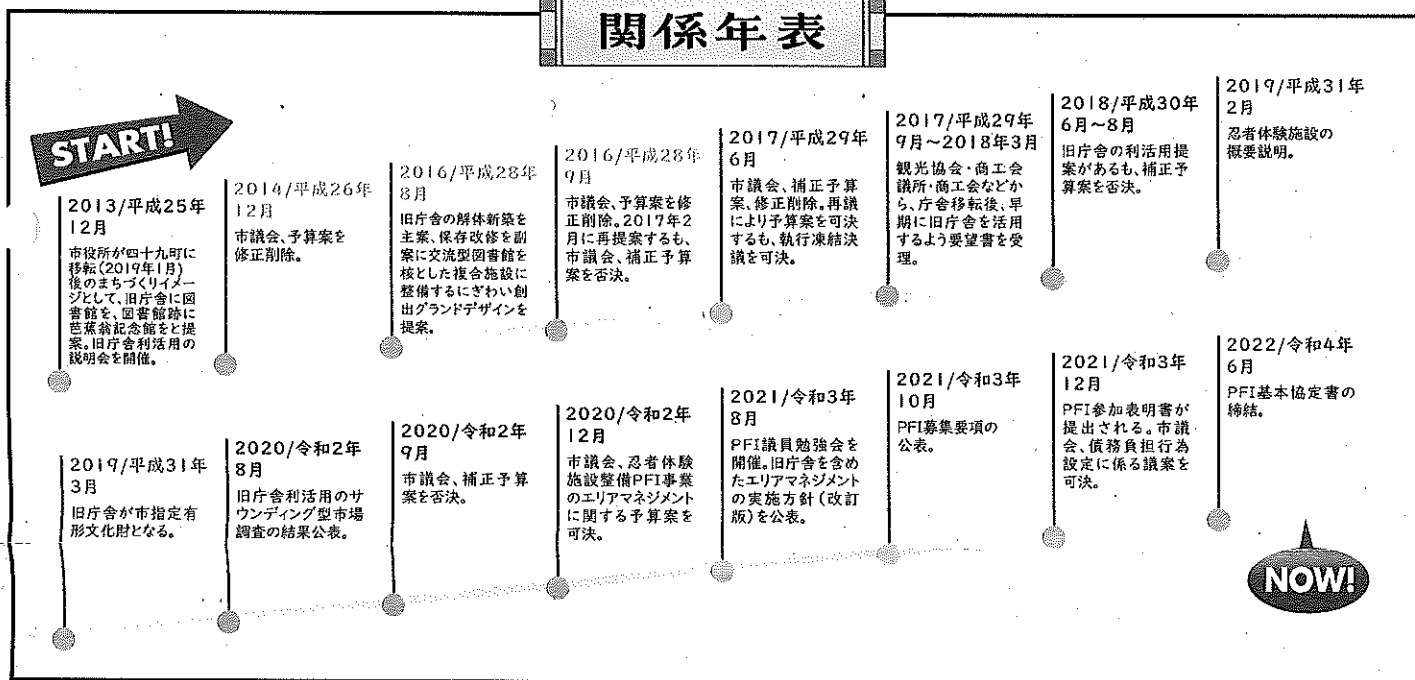
否決が繰り返され、3億円で
できた事業に25億円の支出

旧上野市庁舎の利活用が、忍
者体験施設整備とともに官民連携の
PFI事業で進んでいます。現在
は、実施設計の段階ですが、ここ
に至る経緯は下の年表のとおりで
す。

年表にあるように、当初、国の合
併特例債を活用して、市単独事業
として新図書館整備の予定でした
が、予算案上程のたびに市議会は
否決。反対した議員からその具体
的な対案もなく、特例債の期限も
過ぎてしまいました。官民連携の
PFI事業として、市の実質負担
額が大幅に増えたかたちで20年間
の債務負担行為を設定して、よう
やく動き出したというのが現在の
状況といえます。

(文責・増田たけし)

関係年表



二つの温泉の民間売却 合併20年。費やされた 維持費が21億円

伊賀の国大山田温泉と
島ヶ原ふれあいの里は、本
年4月からアプロポザール
入札により、民間事業者に
よる経営となりました。

伊賀市として合併して
以降、平成17年から令和4
年までの17年間で、皆さん
の税金が使用された金額
は、両温泉施設あわせて21
億円余り。内訳は、伊賀の
国大山田温泉が5億2千
万円余り、島ヶ原ふれあ
いの里が16億9千万円余り
となっています。

市有温泉施設のアプロポ
ザール入札の結果は、
【物件① 大山田温泉】
最優秀者
株式会社V's corporation
【物件② 島ヶ原温泉】
最優秀者
なし

次点者 一般社団法人
しまがはら郷づくり公社
となりました。大山田温泉
に於いて、次点者の記載が
ないのは、応募者が次点者
の資格を得る点数に満た
なかったためです。

民間活力で今後、皆さん
の税金をつかうことなく、
両温泉施設が繁栄して欲
しいですね。

(文責・もい弘子)

道の駅あやま等に費や した維持費とこれから

旧阿山町時代から、阿山
ふるさと森公園・道の駅
あやま(阿山交流促進施
設)が運営されています。

さんきーボール(あやま
文化センター)も、旧上野

市などとの伊賀市合併の
際に、駆け込みで作られま
した。

そして、これら3施設の
業務委託料及び指定管理
料として、18年間でおよそ
6億円もの税金が投入さ
れてきました。

しかし、ふるさとの森公
園は以前あった遊具等が
撤去されたり、使用禁止と
なっていて、利用者から不
満の声が上がっています。

道の駅あやまにいたって
は、利用者が多いにもかか
わらず、指定管理料で維持
運営費などが税金から支
払われています。

今後、民間事業者が一体
的に賃貸借すれば、新名神
高速や名阪国道のイン
ターチェンジからも近いこ
とや、風光明媚を最大限に
利用し、様々な工夫をこら
して、誘客・集客に努めら
れ、大きな再生につながり
ます。

(文責・はませたつお)

文化歴史が薫り出す

昭和34年(1959)建設
の芭蕉翁記念館の建て替
えを含む美術博物館建設
準備室が、今年度、市企画
振興部に設置されました。

現在の芭蕉翁記念館は
老朽化により、貴重な芭蕉
さんの自筆作品も収めら
れる収蔵庫が時に雨漏りの
被害を受けており、旧上野
市時代から継続して新設
の議論がなされてきまし
た。

美術館については、平成
の合併後、建設を求める市
民らの約9千200人の
陳情書や要望書、請願書が
市や議会に提出され、採択
されました。

概ね10年間の基本方針な
どをまとめた令和元年(2
019)策定の『市文化振
興ビジョン』でも、「博物
館、美術館などをはじめと
した施設の確保が欠かせ
ません」と謳われていま
す。

心豊かな社会を形成す
るため、やっと市民の思い
が実現に向かっていきます。
(文責・増田たけし)

「令和ネコのあくび」 発行にあたって

世の中はデジタルで、ア
ナログの様に一方的に情報
を押し付けられない、と言っ
てもわかりません。

テレビでさえ、地デジと
なって双方向になっていま
すが、アンケートに四つの
色分けされたボタンを押す
程度。反面防炎情報などは
かなり細かなエリアの情報
でありがたい。

未だにテレビのCMの最
後に「詳しくは検索」とよ
く見ます。要は、欲しいなら
一手間でも掛けて調べなさ
いとも言っているのかと
も思います。

嘘でも、百遍言えは本当
になる。こんなことを聞い
たことがあります。市政情
報は決して嘘はありません
が、その結果を導くのに経
過(プロセス)も重要である
と、私たちは考えます。

市広報や市議会だより
に載らない情報を少しでも、
経過からもちたされた結果
としてお知らせできれば、
議員としての本懐の一部は
遂げられると考えて。

(文責・田中さくら)

【次号特集予告】
小・中学校の校区再編成

「IGA CITY HALL」から、
昨年3月より「IGA CITY
GOVERNMENT」に変更
されました。玄関看板を
変更した市長の見解は？
(桃井)



地方自治というのは、市民の
市民による市民のための行政であり、
よりよい市民生活が送れるようになるという
ことであります。行政は、住民自治の組織の
根幹になるところで、その構成員はすべての
市民です。ですから、国の中央政府、県政
府、市政府というのが本来のあり方
であります。(市長)

田中寛

全国市
議会議長会か
ら、在職10年
の表彰を受け
ました。三期
にわたるご
指導に感謝
を申し上げます。
県と市を通算
して、9回の
選挙に7回の
当選。長きに
亘る議會を
振り回した
時代の背景
の激変と議
会の役割を
も熟考させ
ていま
す。

その昔、このように言ってもいいと思いますが、伊賀の政治の枠組みは、嘉藤先生、川崎先生、中井先生の国会議員を頂点として、県議や市議の争奪戦を繰り広げ、あたかも戦国時代のような、勢力図が選挙のたびに書き換えられていました。

当時は、県議会や市議会が、知事や市長の追認機関と言ってもさほど差異のない組織であって、地方自治法96条の第一番目にある条例の改廃など、まったく意図されていませんでした。その象徴として、県や市に議員提出

条例が皆無であったことが証明しているといえます。

人口減少を背景として、今だけ「自分だけ二部の地域や団体組織だけ」の利益のためだけに、行政も議会も存在しません。

今を生きている私たちが、これからの人たちに投資・支援していくことが肝要と考えています。

「すべては、次世代のために」を政治のものさしに、私たちの生活に一番身近な市の政治に、日々、取り組んでいます。

桃井弘子

7年目、二期
貫して子育て、
て、教育、医療
福祉を軸として
取り組んでいます。
二人の子どもは、
中学3年生と保育所
年長。私は、子育て
真っ最中というよ
り、子どもを通じて
いろいろな勉強さ
せていただいてい
ます。

そんなこ
んなの気

づきから政治に目を
向けると、「矛盾」疑
問「理不図」が見え
てきます。今後も、課
題にしっかりと向き
合ひ、さまざま課
題の解決につなげ
ていきます。

お母ちゃん目線
で、日々の生活のな
かの課題や利便性
から例えば、ゴミ袋
を手提げ型に変更し
ました。

新生児期の聴力検
査は、非常に大切で
す。しかし、自己負
担額が6千円のため
、検査の受診が100
%ではなく、半額の
3千円補助を実現し
ました。

また、災害、また
、大きなイベント時
に、授乳する場所
に悩まされる

ご家族を

さらに二家族がお亡くなりになられた時、市役所の手続きが多少岐にわたります。ご遺族の負担を減らすために「窓口を一本化し、おくやみ窓口」を設置し、実家が寺なので、高苑の不具合がよく分かります。老朽化した斎場の早期建て直しを実現しました。

市民生活、日々の生活に密着した課題が最も重要であり、小さいことからコツコツと取り組むことにより、大きな施策につなげていきます。

増田雄

源が減ることにつながる。す。予算の削減が必要ですが、どの施策を推進してどの施策を見直すのか、しっかりと見極めたいと考えます。

中心市街地ではにざわい忍者回廊事業を核に、2025年の大阪・関西万博に焦点を定め、観光立市として観光施策に取り組んでいます。

例えば市街地では、コミュニティプラントは水をきれいにするうえで有効でしょうし、土地区画整理事業を実施するなど思い切った施策が、住民との協働で実現しますとこの再構築につ

これまで
私の政策提言で美術博物館構想の調査費を獲得し、伊賀市においても準備室が置かれ、美術館の設置が実現しようとしています。

これからも地域の伝統文化を活かした心豊かな街づくりの視点から諸施策を進めていきます。

増田雄

7

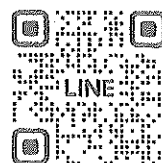
濱瀨達雄

方法も見えています。
学生時代は、サボることはかりでしたが、現在は、人生の中でいちばん勉強をしています。
今後勉強です皆様の声をつかがい、結果を出せるよう努力します。

進めてい
す。

自己紹介員集編

はませたつお
22-8794
kadode4976@gmail.com
増田たけし
21-0532
masumasuiga@gmail.com



©NEKONAKUBI2023